

令和7年度 八王子市立松が谷小学校 学校経営計画

八王子市立松が谷小学校 校長 沓澤 広明

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調にして確かな学力の定着と心身の健康をめざし、次の目標を掲げてその育成に努める。

「げんきで なかよく がんばる子」

2 目標の具体的な児童像

○元気な子（体） ・ 明るく活発で個性を伸ばそうとする子

・ 心と体の健康づくりに主体的に取り組み、たくましく生きる子

明るくチャレンジの気持ちをもつ「元気な子」を育成するために、めあてをもって努力し協力して解決や達成をめざす姿が発揮できる場を多様に設定するとともに心身の健康づくりを重視する。

◎仲良くする子（徳） ・ 自ら考え判断し行動できる人間性豊かな子

（重点目標） ・ 自他を尊重し、思いやりの心をもって共に生きようとする子

学校生活や社会生活を自分たちで協力して創る「仲良くする子」を育成するために、あいさつや交流、決まりを守ることを通して豊かな人間関係を築くことを重視する。

○がんばる子（知） ・ 自ら考え判断する力を伸ばし、自分の意思を表現する子

・ 自分の力を活用し粘り強く取り組む子

自己発揮・自己実現しながら「がんばる子」を育成するために、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を重視する。

○育てたい松が谷っ子の4つの心（松が谷っ子の4S）

「**ま**じめな心」「**つ**よい心」「**が**んばる心」「**や**さしい心」

3 目指す学校像

～子供も大人もウェルビーイング（Well-Being）な学校～

○子供たちや教職員が、毎朝、友達や同僚に会うことを楽しみにする学校

○保護者が、我が子を本校に通わせて良かったと心の底から思われる学校

○地域の方々が、松が谷小を誇りに思い、行ってみたくなる学校

※ウェルビーイング(Well-being)…身体的・精神的・社会的に良い状態 持続的な幸福な状態

4 目指す教師像

松が谷小の教職員として次の7点を心がけて、教育活動を行っていきます。

① 服務の厳正

・ 報告・連絡・相談の徹底

・ 定期的な服務規律に関する研修の実施

・ 校内での言動、時間厳守など、社会人としての基本的マナーの確認と共通理解の徹底

・ 管理職による定期的なヒアリングやセルフチェックシートの活用で自己点検を促進

② 人権意識の醸成

- ・人権教育に関わる研修の実施（いじめ、差別、ハラスメント対応など）
- ・教職員同士の対話を通じた職場内の人権意識の向上

③ 教育のプロとしての自覚

- ・教育研究、授業研究の奨励（校内公開授業）
- ・自己研鑽のための研修参加の支援
- ・振り返りと自己評価を通じた成長サイクルの確立

④ 互いに協力し補完し合う教師集団

- ・学年や教科でのミーティングの実施、役割分担と情報共有を明確に
- ・指導案や教材の共有化、先輩教師によるメンター制度の活用
- ・「ありがとう・称賛・支援」の声かけを意識する職場風土の醸成

⑤ 児童の安心・安全を第一に考えた対応

- ・危機管理マニュアルの定期見直しと訓練（避難訓練、不審者対応など）
- ・児童の変化に早く気づく観察力と組織的対応（情報の横断的共有）
- ・SNS・スマホ等に関するリテラシー教育の実施

⑥ 児童一人ひとりを愛し、創意ある教育

- ・個別最適な学びを意識した指導（習熟度別対応など）
- ・児童理解のための会議の活用、定期的な家庭との連携と情報の共有

⑦ 地域・保護者との連携

- ・地域行事への参加の推奨
- ・定期的な学校便りやホームページによる情報発信

5 今年度の基本方針と具体的な方策

◆豊かな心の育成

○自尊感情を育む教育活動

- ・自己肯定感や自己有用感を高めるために、児童一人ひとりの良さや頑張りを見つけて伝える活動を実施する。
- ・学級活動や道徳の時間を通じて、成功体験を積み重ねられるような活動を計画的に行う。

○異学年交流の推進

- ・年間を通じた縦割り班活動で、学年を超えたつながりを育みながら交流を深めていく。
- ・高学年がリーダーシップを発揮できるように事前指導や振り返り活動を行う。

○いじめを生まない、許さない学校づくり

- ・児童や学級の状況を的確につかみ、理解した上で、丁寧で具体的な手だてを講じていく。
- ・児童への速やかで丁寧な対応を行うことで、保護者との信頼関係を築く。
- ・保護者と言葉を通わせ合い進め、連携を推進する。
- ・「子ども見守りシート」を活用し、常に家庭からの情報も共有できるようにする。
- ・毎週月曜日に開催される「いじめ対策委員会」で情報を共有し、組織的な対応を行う。

○不登校児童への支援

- ・学級担任、養護教諭、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携による支援を引き続き行っていく。
- ・学習用端末や家庭訪問等を活用して、つながりを継続していく。

○子供たちの個性や特性を尊重

- ・児童の興味関心を取り入れた学級経営や授業づくりを推進する。
- ・児童の多様な面を紹介し合う機会を設定する。

○障害や性、文化等の多様性への理解

- ・道徳や総合的な学習の時間等において、多様性理解を深める指導を行う。

○共生社会を生きるための基礎の育成

- ・福祉体験活動や地域の高齢者との交流を通じて共感力の育成を図る。

○児童一人ひとりに応じた指導と環境整備

- ・学習や生活支援におけるティームティーチングや個別指導を活用していく。
- ・静かなスペースや安心して過ごせる場所の整備を行う。

◆確かな学力の育成

○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進

- ・人とのかかわりや対話、体験を積極的に取り入れ、問題解決的な学習を展開できるよう探究的な学習の過程を重視する。
- ・特に「総合的な学習の時間」「生活科」「特別活動」では、多様な教科・領域で身に付けた見方・考え方を存分に発揮して主体的に探究的な学びを展開し、課題解決・問題解決に取り組む姿を追究する。
- ・児童の理解状況に応じた学習課題や教材の工夫（習熟度別課題）を行う。
- ・意見交流やペア・グループ活動を工夫し、学び合いの充実を図る。

○問題解決的な学習が展開できるよう探究的な学習の過程を重視

- ・「問いを立てる」「調べる」「まとめる」「伝える」過程を意識した授業づくりを行う。
- ・単元末のプレゼンテーションやまとめ新聞など、発表する機会を設定する。

○5、6年生の一部教科担任制の実施

- ・教科担任間の情報共有と指導の一貫性を図るための定期的な情報共有を実施する。
- ・教科の専門性を活かした教材研究と授業改善を促進する。

○学習用端末の活用

- ・児童一人一人の特性や学習進度、到達度等に応じて柔軟に対応していく「指導の個別化」や、児童一人一人にあった学習活動や学習課題を提供し児童自らが判断し解決していく「学習の個性化」を図る一助とする。
- ・調べ学習、情報収集、プレゼン資料作成など、積極的に ICT を活用する。
- ・「みんなで振り返る」「学びをまとめる」などの活動に、学習用端末を活用する。

○振り返り活動の徹底

- ・振り返り活動の重要性を理解し、「めあて→ふりかえり→次へのつなぎ」の学習サイクルを日常化する。

◆健やかな体の育成

○運動や運動遊びの楽しさが実感できる環境整備

- ・校庭や体育館の運動用具を整備し充実を図る。

○昨年度までの校内研究を活かした体育指導の充実

- ・研究成果を踏まえた指導案の共有と活用を推進する。
- ・児童の運動技能に応じた分かりやすい指導と評価の工夫を行う。

○運動の日常化、習慣化への取組

- ・松が谷オリンピック（体力調査）を効果的に活用していく
- ・朝や休み時間を利用した運動の取組を今年度も継続して実施する。

○給食と連携した食育活動の推進

- ・給食管理員と連携した「食育メモ」の活用や「食の授業」を実施する。
- ・創立50周年を契機に、郷土食や季節の食材について学ぶ活動を展開する。

◆特別支援教育の充実

○「そよかぜ学級」開級に伴う交流・共同学習の推進

- ・合同授業や学校行事で協働活動する場面を設定し、互いの理解を深める機会を確保する。
- ・個々の配慮事項を共有し、無理のない交流の方法を検討していく。

○「ひだまり教室」との連携強化

- ・担任とひだまり教室の教員との連携を強化するために、月曜日の放課後に時間を設定し、情報の共有をしっかりと行うようにする。

○専門性の向上

- ・外部講師を招いた研修会を開催し、特別支援教育の専門性を高める一助とする。
- ・特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実を図る。

◆家庭・地域との連携

○創立50周年記念関連行事への取組

- ・児童・保護者・地域と連携して記念行事を企画し、創立50周年にふさわしい教育活動の振り返りと未来への展望を共有していく。

○地域との協働推進

- ・学校運営協議会及び青少年対策松が谷地区委員会や保護者との協働を推進するとともに、定期的な情報交換・事業連携を行う。

○小中一貫教育の充実

- ・義務教育9年間を見通した小中一貫教育とするために、人権意識の向上を踏まえ、育てたい共通の児童・生徒像を「自ら考え判断し行動できる児童・生徒」「主体的に学習に取り組むことができる児童・生徒」「思いやりや感謝する心をもった感性豊かな児童・生徒」と定め、自他ともに愛することができ、地域社会に貢献できる人間の基礎を育成する。

○保幼小連携の推進

- ・ 近隣の保育園・幼稚園等と連携し、スタートカリキュラム及び架け橋プログラムの具現化に組織的に取り組む。

- ・ 学期に1回程度、保幼小連携の日を設定し、近隣の保育園と幼稚園と情報共有する連絡会を開催する。

○松が谷高校との連携

- ・ 松が谷高校内での1、6年生によるたけのこ掘りや、毎月1回の高校生による放課後英語授業を通して、特色を活かした教育活動を推進する。

◆安心・安全な学校づくり

○安全教育の充実

- ・ 日常の安全指導の充実を図ると共に、避難訓練やセーフティ教室、薬物乱用防止教室、自転車安全運転教室等において、自分の身は自分で守る力を育てる。

○服務事故防止の徹底

- ・ 教職員に対して、体罰や不適切な指導、交通事故、個人情報漏洩等の服務事故を防止するために、学期ごとの研修や職員会議、管理職の定例連絡会後において周知を行うと共に、報告・連絡・相談の徹底を行う。

○教育活動の情報発信

- ・ 学校・学年だよりやホームページ等で、本校の教育活動の情報発信の充実を図る。

